

## Colabo とつながる少女・女性たちからのメッセージ (2024 年 10 月 2 日報告集会)

- ① 私自身、コラボはずっと最後の砦として心の隅にいた。  
どうにもなくなったら頼ろうと。  
実際、どうにもならなくなり連絡した。  
でももしもあのときにデマが拡散されていたらきっと、ほかの大人たちに対してそうだったように、コラボに対しても諦めてしまったと思う。  
自分のことに手一杯の状況では、真偽を調べたり、考えたりすらできない。  
加えて、バスカフェの開催がこれまで通りできなくなったことで、物理的に接触するハードルもとても上がる。  
頼ることだけでなく、生きることすら諦めしまう可能性もある。  
妨害によって、また、妨害に屈することで失われる命があるということを多くの人に知って欲しい。  
そんな社会を作らないで欲しい。
  
- ② 嬉しい誕生日の思い出のご飯とメニュー表、ちょっと面白くなっていたのに、デマの印象で消された感じがする。関係ないキモいおじさんが関わってきて、気持ち悪い。  
バスカフェの活動中、街にいる女の子たちに声をかけても、こういうデマで Colabo への悪いイメージがついてるんだなって、声をかけた女の子たちから伝わってきたこともあるし、裁判になって全部勝訴していることが記事になっても、デマは止まなくて、あんまり重要視されてないんだなって感じたりしている。  
女性を支援する Colabo が、こういう妨害のせいで歌舞伎町から追い出されて、性被害が起きている「きみまも」(東京都が開設した青少年支援施設)にお金が入るのも、社会って最悪だなって思う。
  
- ③ 私が Colabo に初めて連絡をした日、X のトレンドには Colabo 問題の文字があった。やはり、Colabo と繋がる前には Colabo とはどんなところか調べる女の子は多いと思う。そうして、調べた時に出てくる投稿は暇空たちの流しているデマの情報や、そのデマを信じた人達の Colabo への攻撃では女の子たちは怖がって Colabo と繋がりにくくなってしまうと思う。私はその時、不安ながらも Colabo を信じた。家を追い出されて外で暮らしている今、信じるしかなかった。けれど、私がその時 Colabo を信じられなかったら、私は今も家で虐待されていただろう。そのまま死んでしまっていたかもしれない。Colabo のデマを流すこと、Colabo を攻撃することは何人もの女の子の命に関わることであると知ってほしい。人生を変えてしまうことであることを知ってほしい。  
バスカフェは私にとって生命線だ。  
私と同じようにバスカフェの居場所を大切に思っている女の子は多いはず。  
今、このメッセージを聞いている皆さん。  
私と一緒に Colabo と連帯して、少女たちの居場所を守ってください。  
暇空たちが流したデマや、それを信じた人たちの攻撃に負けずにこれからもバスカフェという少女たちの居場所を一緒に守ってほしいです。  
よろしくお願ひします。